言語学演習

田中春美
樋口時弘　家村睦夫　五十嵐康男
倉又浩一　中村　完　下宮忠雄
共著

目　次

はじめに……iii

第1章　総　　論

1　言語とその周辺……3
1. 話しことば，書きことば　2. ラング，パロール
3. 通時態，共時態　4. 非言語伝達

2　言語の一般的特徴……8
1. 記号　2. 記号学　3. 二重分節　4. 統合関係，連合関係
5. 動物の言語　6. 言語の機能

3　言語研究の分野……13
1. 音韻論，音素論　2. 音声学　3. 形態論，統語論　4. 意味論
5. 文字論　6. 語彙論

4　言語の変種……20
1. 地域方言　2. 個人語　3. 社会方言　4. 共通語
5. 標準語　6. 口語，文語　7. 慣用文体

5　言語の分類……26
1. 系統的分類　2. 地理的分類　3. 類型的分類　4. 孤立語
5. 膠着語　6. 屈折語　7. 抱合語　8. 言語類型論
9. 言語の起源

6　さまざまな言語学……31
1. 伝統的言語研究　2. 歴史・比較言語学　3. 構造言語学
4. 変形生成文法　5. 心理言語学，神経言語学　6. 社会言語学
7. 応用言語学

第2章　音　　論

1　音声言語……37
1. 音声記号　2. 国際音声字母　3. 音質，音価

2　音声の分析法……46
1.　音声学，音韻論　2.　調音音声学，音響音声学，聴覚音声学
3.　音素論，生成音韻論　4.　形態音素論，形態音素規則
3　分節音素（1）……55
1.　音素，音素類，異音　2.　弁別的素性，音声素性
3.　単母音，二重母音，三重母音
4　分節音素（2）……64
1.　閉鎖音，破裂音　2.　摩擦音　3.　破擦音，歯擦音　4.　鼻音
5.　側音，流音　6.　半母音，わたり音
7.　唇音，歯音，硬口蓋音，軟口蓋音，声門化音
5　超分節音素……72
1.　音の高低　2.　強勢，アクセント　3.　連接

第3章　形　態　論

1　語……81
1.　単一語，複合語，派生語　2.　自立語，付属語　3.　品詞，語類
4.　品詞の転換　5.　屈折　6.　派生　7.　語形変化系列
2　形態素……90
1.　自由形態素，拘束形態素　2.　異形態　3.　ＩＡ方式
4.　ＩＰ方式　5.　ＷＰ方式
3　語構成（1）……98
1.　語基　2.　語根　3.　語幹　4.　接辞
4　語構成（2）……105
1.　合成　2.　逆形成　3.　混淆　4.　省略
5　文法範疇……114
1.　義務範疇，任意範疇　2.　性　3.　数　4.　格　5.　人称
6.　時制，相，法

第4章　統　語　論

1　文とその要素……125
1.　単文，重文，複文　2.　平叙文，疑問文，命令文，感嘆文
3.　主語，述語　4.　目的語，補語，修飾語句

2　文の構造……131
1.　構造体，構成要素　2.　直接構成要素分析　3.　構造型
4.　内心構造，外心構造，支配，一致　5.　構成要素類
3　生成文法の考え方……137
1.　言語能力，言語運用　2.　文法性，容認性　3.　普遍性，多様性
4.　深層構造，表層構造　5.　生成文法の変種
4　初期生成文法の構成……143
1.　句構造規則　2.　記号列　3.　句構造標識　4.　変形規則
5.　核文　6.　形態音素規則
5　中期生成文法の概略……151
1.　統語部門　2.　再帰性　3.　選択制限　4.　替え玉記号
5.　音形部門　6.　意味部門

第5章　意　味　論

1　意　味……157
1.　概念的意味　2.　内包的意味　3.　文法的意味　4.　指示物
2　いろいろな意味論……164
1.　哲学的意味論　2.　意味の曖昧性　3.　言語学的意味論
4.　変形生成文法における意味論　5.　心理学的意味論
6.　一般意味論　7.　同音異義語
3　意味変化……171
1.　意味変化の原因　2.　意味変化のパターン　3.　提喩
4.　換喩　5.　隠喩
4　意味の構造……177
1.　成分分析　2.　意味微分　3.　意味の場　4.　類義語
5.　反義語　6.　意義素　7.　談話分析　8.　前提
5　意味と文化……184
1.　文化人類学的意味論　2.　意味の相対性　3.　意味の普遍性
4.　タクソノミー　5.　擬態語　6.　翻訳借入

第6章　文　字　論

1　文　字……191
1.　文字言語　2.　文字の研究

は，高母音（口の中で上のほうに調音点がある），中母音，低母音（舌が下のほうに下る）の三つに分けられる。

母音は，分節音素一つから成り立っているものを単母音といい，二つからできているものを二重母音と言っている。また，三つのものもあり，それを三重母音と呼ぶ。英語の［ai］(I) は二重母音，［faiə］(fire) は三重母音である。日本語でも，［ai］（愛）は二重母音として扱うのが普通である。このような二重母音は，最初の母音に中核があり，二番目の母音は添えられた感じである。そこで，二番目の母音は「わたり音」(glide) として，母音として認めない立場もある。なお，二重母音は，必ずしも前の母音に中心があるとはかぎらず，例えば英語で「ほんとうにきれいだ！」と言う時には，Beautiful！を［biú:tifəl］のように，後に中心を置くこともありうる。

例題

【例1】 次の母音はどういう母音か，説明しなさい。

(1) ［æ］　　(2) ［u］

【解説】 母音は，(i) 口腔の前のほうで調音されるかどうか（前か中か後か），(ii) 調音点が上か下か，つまり舌の高さが高いか中位か低いか，という二つの点で区別する。母音図を見れば分かるように，［æ］は「低」(low) で「前(舌)」(front) の母音である。したがって，答えは(1) 前舌低母音となる。

(2)の［u］は，母音図を見ると，「高」(high) で「後(舌)」(back) の母音である。したがって，答えは(2)後舌高母音となる。前舌母音と後舌母音は，「舌」をつけずに「前母音」「後母音」と言うことも多い。また，「高母音」は，結果的に口を閉じる形になるので，「閉母音」ともいい，「低母音」は，口を大きめに開けることになるので，「開母音」ともいう。「中母音」(mid) はどちらでもないので，「半開(半閉)母音」ともいう。

また，英語の後(舌)母音は，ほとんど唇を丸めるという特徴をもってい

るのに対し，日本語ではそういうことがないのに注意する必要がある。

【例2】 次の三つの音は，日本語において別々の「音素」と言えるだろうか。

(1) 「雨」と言う時のア［a］の音。
(2) 「いやになっちゃったなあ」という気持を表わす時などや，「アーあった」と口を大きく開けて出すア［ɑ］の音。
(3) 口をほんの少し開けて，小声で「アッ」という感じのア［ə］の音。

【解説】 ［a］または［ɑ］対［ə］は，英語などでは別々の音素になる。つまり，それぞれ別の意味を表わす基準となるものである。例えば，アメリカ英語で［hɑt］と言えば hot〈暑い〉のことだし，［hət］（日本では［hʌt］と表記するのが普通）は hut〈小屋〉である。しかし，日本語では，この三つの［ア］の音は，どれを使ってもほかのものを意味しない。つまり発音の個人差として片づけられるか，あるいは，少し変な感じだというような印象を与えるだけにとどまる。日本語では，口を大きく開けて言おうが，小さめに開けて言おうが，どれも［ア］の音として取り扱われる。すなわち，［a］［ɑ］［ə］いずれも一つの /ア/ (/a/) と表記するのがよいと思われる。/ / は音素を示す。なお，a を音素記号 / / の中に入れるのは，他の二つより日本語のアの音に近いと考えられるからである。別々の音素としては扱えず，/ア/ という音素の中にある［a］［ɑ］［ə］という別別の単音は，異音ということになる。

練習問題

1. 次の日本語の例から，どのような音素があるか見つけなさい。